

(2) 三成小学校

ア 今後の児童数及び学級編成予定

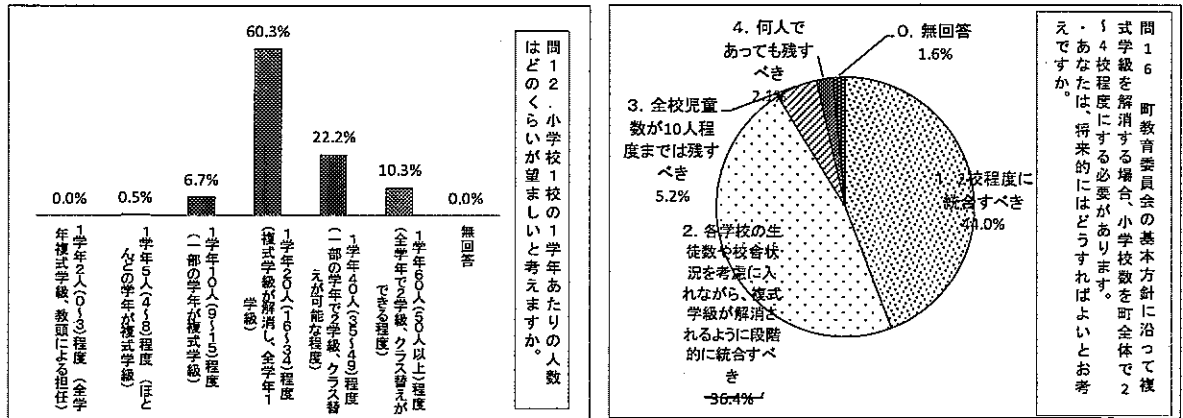
三成小		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
1年	男	10	7	8	11	12	9	16	15	14	13
	女	7	8	6	8	7	8	16	15	14	13
2年	男	5	10	7	8	11	12	9	16	15	14
	女	3	7	8	6	8	7	8	16	15	14
3年	男	6	5	10	7	8	11	12	9	16	15
	女	14	3	7	8	6	8	7	8	16	15
4年	男	10	6	5	10	7	8	11	12	9	16
	女	5	14	3	7	8	6	8	7	8	16
5年	男	10	10	6	5	10	7	8	11	12	9
	女	9	5	14	20	3	7	8	8	7	8
6年	男	7	10	10	6	5	10	7	8	11	12
	女	9	9	5	14	3	7	8	6	8	7
児童数		95	94	89	93	92	101	100	100	100	94
学級数		6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

イ 学級編成、学校運営上の課題

今後10年間は、通常学級が単式6学級の、現状の学校規模を維持するものと考えます。

現在の校舎については、老朽化が進むとともに、特別支援学級、通級指導教室等の増設により、管理運営上の課題はありますが、2021年竣工予定の新校舎により対応できるものと考えます。

三成 小学校区保護者のアンケート結果



47.2

(3) 高尾小学校

ア 今後の児童数及び学級編成予定

高尾小		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
1年	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0
2年	男	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0
3年	男	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0
4年	男	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	女	1	0	1	0	1	1	1	0	0	0
5年	男	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0
	女	0	1	0	1	0	1	1	1	0	0
6年	男	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0
	女	2	0	1	0	1	0	1	1	1	0
児童数		9	7	7	6	5	4	3	2	1	0
学級数		3	3	3	3	3	3	2	1	1	0

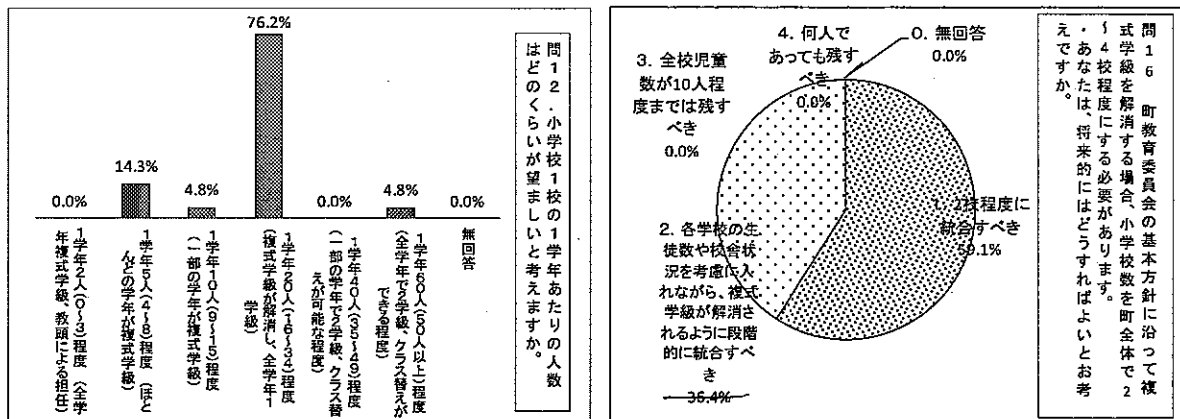
イ 学級編成、学校運営上の課題

2019年度以降、出生数からの予測では、更なる児童数の減少が予想されます。また、1人学年及び複式学級であっても児童数2名の学級となるなど、子どもたちが多様な考え方に触れる等の社会性を培う学習、ゲーム運動などの集団学習、不特定を相手にしたコミュニケーション能力の育成等に支障をきたすことが予想されます。

2024年度以降は、学級数の減少に伴い教員定数も減少し、学校施設管理、学校運営上様々な問題が発生するものと思われまます。

このため、三成小学校新築校舎の竣工に伴い、三成小学校との再編に向けて、協議を進めています。

高尾 小学校区保護者のアンケート結果



40.9

(4) 亀嵩小学校

ア 今後の児童数及び学級編成予定

亀嵩小	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
1年	男	4	6	5	3	1	4	6	5	5
	女	9	0	7	3	0	2	6	5	5
2年	男	2	4	6	5	3	1	4	6	5
	女	4	5	0	7	3	0	2	6	5
3年	男	2	2	4	6	5	3	1	4	5
	女	4	2	5	0	7	6	0	2	6
4年	男	2	2	2	4	6	5	3	1	11
	女	3	4	2	5	0	7	3	0	6
5年	男	3	2	2	2	4	6	5	3	4
	女	2	3	4	2	5	0	7	3	2
6年	男	0	3	2	2	2	4	6	5	1
	女	7	2	3	4	2	5	0	7	0
児童数	36	35	42	43	38	40	37	36	29	28
学級数	4	4	4	4	4	4	5	5	4	4

イ 学級編成、学校運営上の課題

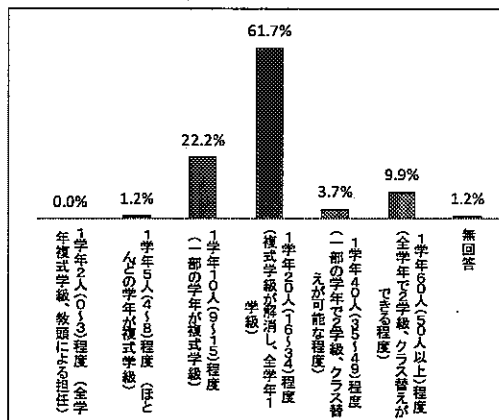
2020年度の入学児童は、男子のみ6名、2023年度の入学生は、男子1名のため、友人関係等の社会性を培う上での課題が予想されます。また、2020年度の男子6名については、男女共学の学習活動を通して「多様性」を尊重し「協働性」を身に付けるという学習の機会が制限されます。

また、2023年度の男子1名の入学生は、学年別指導（わたり）の授業を1人で受けることになり、多様な意見との接触、複数を相手としたコミュニケーション能力の発達に支障が生ずる可能性もあります。

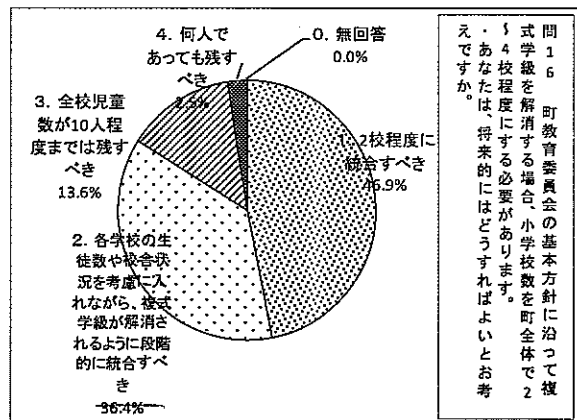
2025年以降、学年、男女による不均衡や更なる児童数の減少が予想されるため、上記の課題が継続するものと思われます。

なお、2023年度から低学年が8名以下になる学年度は、学級数の減少に伴い教員の定数も減少し、学校運営上の課題も大きくなります。

亀嵩 小学校区保護者のアンケート結果



問12 小学校1校の1学年あたりの人数はどのくらいが望ましいと考えますか。



問16 町教育委員会の基本方針に沿って複式学級を解消する場合、小学校数を町全体で2~4校程度にする必要がありますか。あなたは、将来的にはどうすればよいとお考えですか。

37.0

(5) 阿井小学校

ア 今後の児童数及び学級編成予定

阿井小	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
1年	男	3	8	5	8	2	5	8	8	7
	女	2	4	3	1	4	5	8	8	7
2年	男	6	3	8	5	8	5	9	8	8
	女	8	2	4	3	1	4	9	8	8
3年	男	6	6	3	8	5	8	2	9	8
	女	5	8	2	4	3	1	4	9	8
4年	男	1	6	6	3	8	5	8	5	9
	女	7	5	8	2	4	3	1	5	9
5年	男	5	1	6	6	3	8	5	2	5
	女	9	7	5	8	2	4	3	4	5
6年	男	5	5	1	6	6	3	5	8	2
	女	6	9	7	5	8	2	4	1	4
児童数	63	64	58	59	54	50	54	50	50	48
学級数	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5

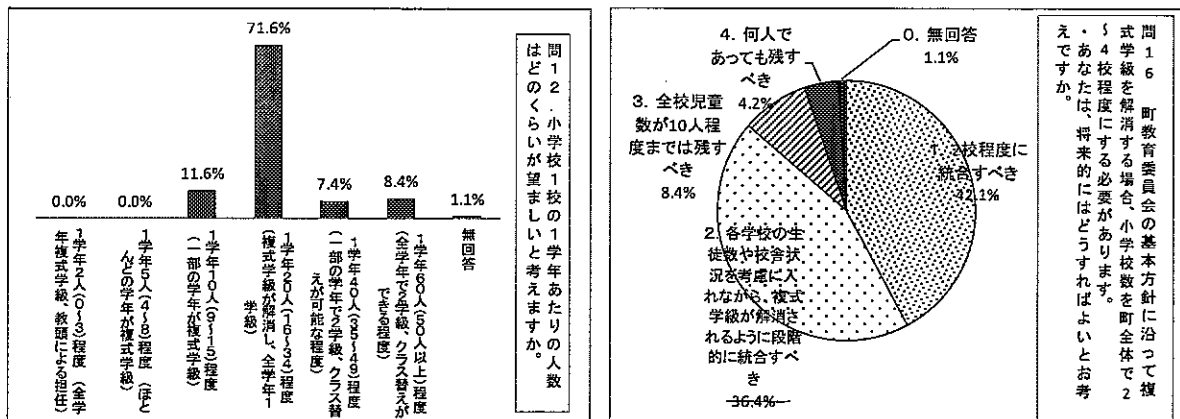
イ 学級編成、学校運営上の課題

2022年度の入学生については、女子が1名であり、この学年については、6学年間女子1名の学級が編成されるため、良好な友人関係、多様な価値観の育成などに支障が生ずる可能性があります。

また、2025年度から中学年が複式学級となります。本指針では、2025年度以降の入学者数を9名から徐々に減少するものとの見込みを示していますが、2019年度5名、2023年度6名のように、年度による増減を伴いながら、少子化は進行するものと考えられます。

このため、2025年度以降、実際には複式学級の増加、単複の繰り返しによる学級数の増減に伴う教員数の増減、男女数の不均衡など教育上の課題を含め複数の学校運営上の課題が生ずる可能性があります。

阿井 小学校区保護者のアンケート結果



(6) 三沢小学校

ア 今後の児童数及び学級編成予定

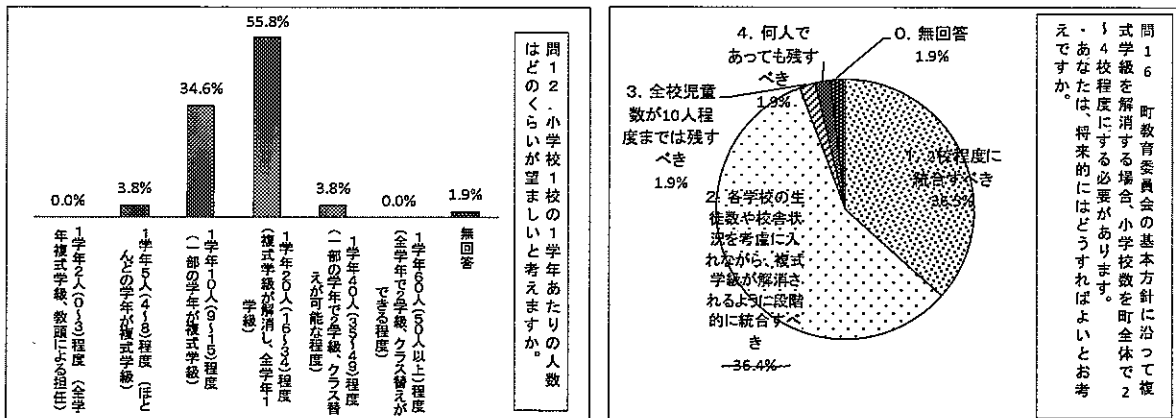
三沢小	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	
1年	男	1	1	1	1	2	0	3	3	2	2
	女	3	4	5	0	2	2	3	2	2	4
2年	男	4	1	1	1	1	2	0	3	3	2
	女	3	7	3	5	0	2	2	3	3	2
3年	男	1	4	1	1	1	1	0	3	3	3
	女	2	3	3	1	5	0	2	2	5	6
4年	男	0	1	4	1	1	1	1	0	5	3
	女	1	2	3	3	1	5	0	2	2	3
5年	男	3	0	1	4	1	1	1	2	0	6
	女	2	1	2	3	3	1	5	0	2	2
6年	男	1	3	0	1	4	1	1	1	5	2
	女	0	2	1	2	3	3	1	5	0	2
児童数	21	22	23	23	24	19	18	19	15	16	
学級数	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	

イ 学級編成、学校運営上の課題

現在、男女いずれかが1名の学年が生じています。こうした学年については、男女共学による友人関係、多様な価値観の育成等、教育上の支障が懸念されます。2020の入学生は、前述の要件（児童数と学級編成及び学習指導についての補足説明 P11）により、入学年度は、国語、社会、算数、理科等に関し、「学年別指導（わたり）」を受けることとなりますが、翌年度からは、わたりの授業もまじえ、A・B年度の内容についての授業を受けることになると思われます。

また、2025年以降の入学予測を3名、2027年以降を2名としていますが、学年、男女による不均衡や更なる児童数の減少もあり得ます。こうした状況の中で、子どもたちが多様な考え方に触れるなどの社会性を培う学習、ゲーム運動や合奏・合唱などの集団学習、また、単複を繰り返すことによる学校運営上に支障をきたすことが予想されます。

三沢 小学校区保護者のアンケート結果



57.7

(7) 鳥上小学校

ア 今後の児童数及び学級編成予定

鳥上小		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
1年	男	0	3	1	1	1	2	2	2	2	2
	女	1	1	1	0	2	0	4	2	4	4
2年	男	5	0	3	1	1	1	2	4	2	2
	女	2	1	1	1	0	2	0	2	2	2
3年	男	2	5	0	3	1	1	1	2	2	2
	女	0	2	1	1	0	2	0	0	4	4
4年	男	1	2	5	0	3	1	1	1	2	2
	女	2	0	2	1	1	1	0	2	0	2
5年	男	2	1	2	5	0	3	1	1	1	2
	女	5	2	0	2	1	1	1	0	2	0
6年	男	2	2	1	2	5	0	3	1	1	1
	女	2	5	2	0	2	1	1	1	0	2
児童数		24	24	19	17	18	13	14	12	12	13
学級数		3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

イ 学級編成、学校運営上の課題

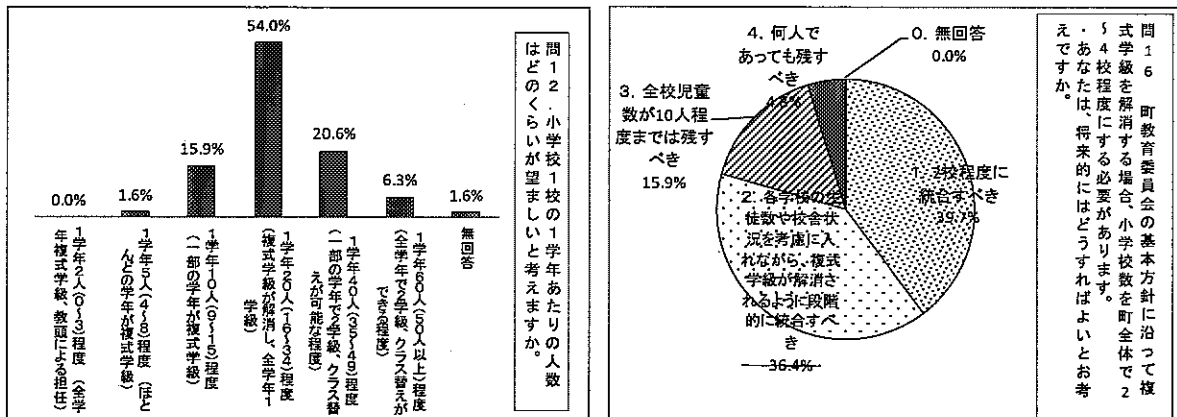
2019年度の入学児童は女子1名ですが、複式学級のため、2年生との学習においては、同性の友人をつくるのが可能です。ただし、わたりの授業が行われるであろう算数については、1人あるいは、担任との1対1の学習場面が生ずるため、多様な考え方に触れる機会は限られたものとなることも考えられます。

2025年以降の入学予測は2名としていますが、更なる児童数の減少もあり得ます。

こうした状況の中で、子どもたちが多様な考え方に触れるなどの社会性を培う学習、ゲーム運動や合奏、合唱などの集団学習、不特定を相手にしたコミュニケーション能力の育成等に支障をきたすことが予想されます。

さらに2024年度以降は児童数15名以下が予想されるため、教頭担任、養護教諭、事務職員など更なる教員数の減少が発生するものと思われます。

鳥上 小学校区保護者のアンケート結果



(8) 横田小学校

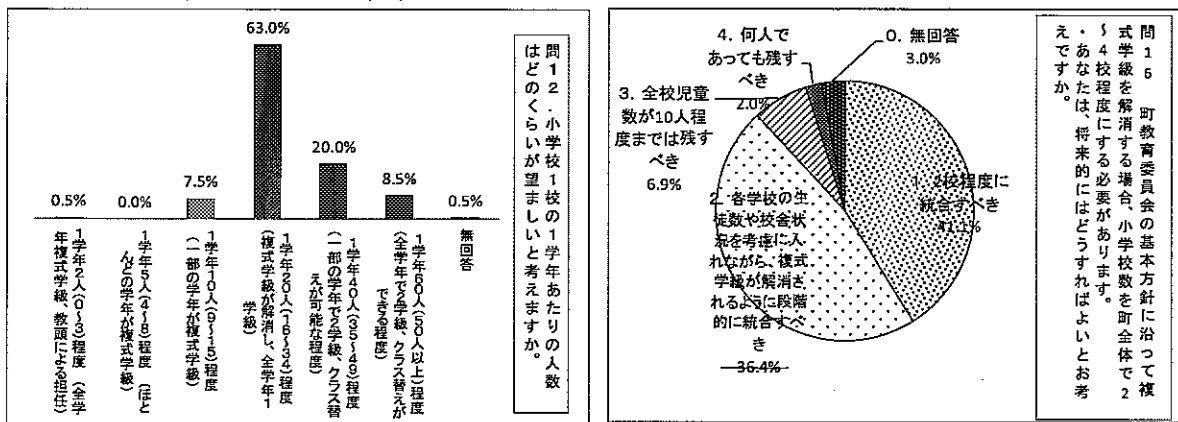
ア 今後の児童数及び学級編成予定

		2019		2020		2021		2022		2023		2024		2025		2026		2027		2028	
1年	男	7	15	7	15	13	18	5	11	6	20	4	10	14	14	13	13	12	12	12	12
	女	8		8		5		6		14		6									
2年	男	5	12	7	15	7	15	13	18	5	11	6	20	4	10	14	14	13	13	12	12
	女	7		8		8		5		6		14		6							
3年	男	2	10	5	12	7	15	7	15	13	18	5	11	6	20	4	10	14	14	13	13
	女	8		7		8		8		5		6		14		6					
4年	男	11	24	2	10	5	12	7	15	7	15	13	18	5	11	6	20	4	10	14	14
	女	13		8		7		8		8		5		6		14		6			
5年	男	9	14	11	24	2	10	5	12	7	15	7	15	13	18	5	11	6	20	4	10
	女	5		13		8		7		8		8		5		6		14		6	
6年	男	13	26	9	14	11	24	2	10	5	12	7	15	7	15	13	18	5	11	6	20
	女	13		5		13		8		7		8		8		5		6		14	
児童数		101		90		94		81		91		89		88		86		80		81	
学級数		6		6		6		6		6		6		6		6		6		6	

イ 学級編成、学校運営上の課題

2025年度以降、15名の入学生から、徐々に減少していく可能性はあります。今後10年間は、2割程度児童数が減少する見込みですが、現状の通常学級単式6学級の学校規模を維持できるものと考えます。

横田 小学校区保護者のアンケート結果



47.0

(9) 八川小学校

ア 今後の児童数及び学級編成予定

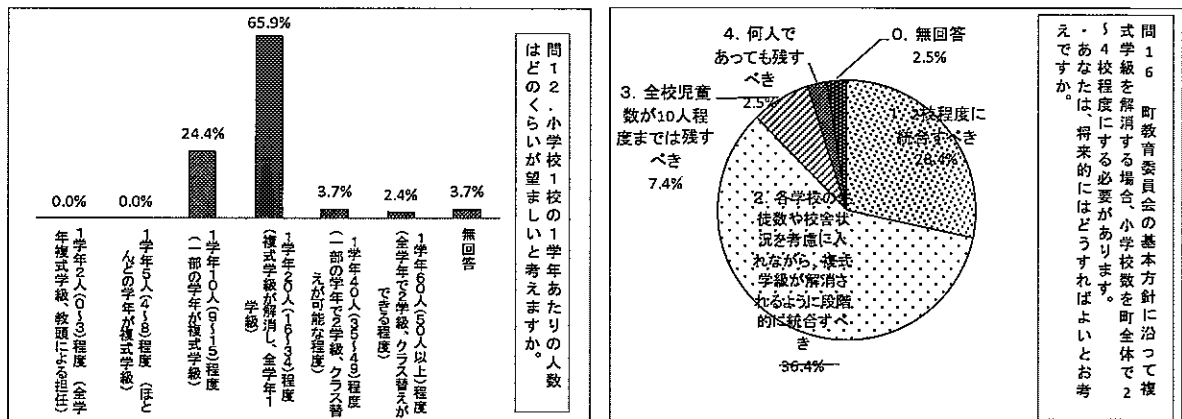
八川小	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	
1年	男	9	5	3	4	2	8	5	5	5	5
	女	1	5	7	1	5					
2年	男	6	9	5	3	4	8	5	5	5	5
	女	5	1	5	4	7					
3年	男	5	6	9	5	3	12	2	1	5	5
	女	2	5	1	5	10					
4年	男	3	5	6	9	5	10	3	2	8	10
	女	4	2	5	1	10					
5年	男	5	3	5	6	9	10	3	2	10	8
	女	5	4	7	2	11					
6年	男	4	5	3	5	6	10	5	3	10	8
	女	1	5	4	2	7					
児童数	50	55	52	50	48	40	35	30	28	28	
学級数	4	6	5	6	6	4	4	4	4	4	

イ 学級編成、学校運営上の課題

現在および今後において、女子が1名のみ学年があり、年度によって男女間の不均衡が生じます。このため、多様な価値観の育成、望ましい人間関係の醸成などに課題が生ずる可能性があります。

また、2025年度の以降の入学予測を5名としていますが、今後の出生状況によっては更なる児童数の減少も考えられます。その場合には、2024年度同様1年生を含む学級が8名以下となり低学年も複式学級となるため、更なる学級数の減少が予想され、教員数の減少による学校運営上の課題が発生する可能性があります。

八川 小学校区保護者のアンケート結果



59.3



(10) 馬木小学校

ア 今後の児童数及び学級編成予定

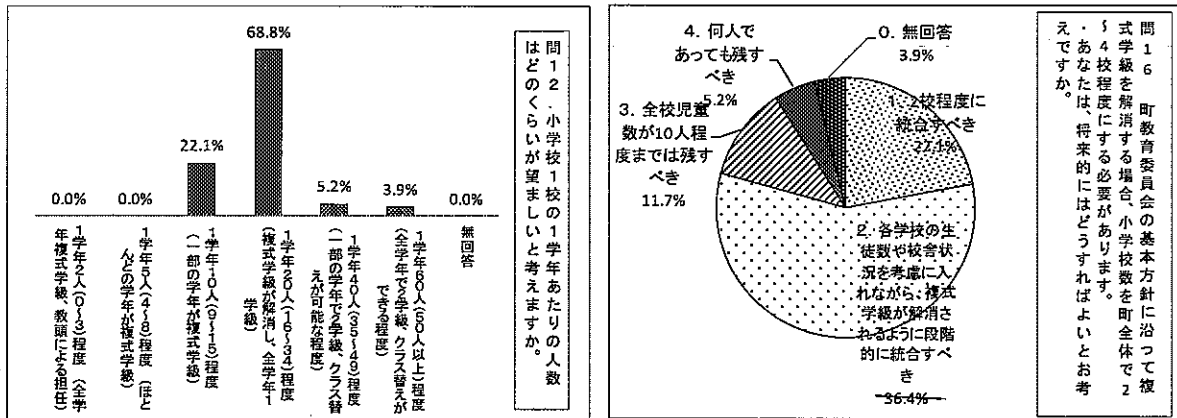
馬木小	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028				
1年	男	7	3	3	3	5	2	8	5	5	5	5	4	4
	女	2	1	2	4	4	1							
2年	男	2	7	3	3	3	5	2	5	5	5	5	5	5
	女	2	2	1	2	4	4							
3年	男	6	2	7	3	3	3	5	2	12	5	8	5	10
	女	8	2	2	1	2	4							
4年	男	5	6	2	7	3	9	3	12	2	8	5	5	5
	女	3	8	2	2	1	2							
5年	男	4	5	6	2	7	3	3	5	16	5	2	12	12
	女	5	3	8	2	2	1							
6年	男	6	4	5	6	2	13	9	12	16	3	5	16	12
	女	4	5	3	8	2	7							
児童数	54	48	44	43	38	37	33	34	34	31				
学級数	6	6	5	5	4	4	3	4	4	4				

イ 学級編成、学校運営上の課題

2020年度の入学児童のうち、女子は1名、同じく2024年度の入学児童のうち、女子は1名で、年度によって男女間の不均衡が生じます。このため、友人関係の構築を含め、望ましい人間関係の醸成、多様な価値観の育成などに課題が生ずる可能性があります。また、2021年度からは中学年が、2023年度からは高学年も複式学級となっていくことが考えられます。

また、2025年度の以降の入学予測を5名としていますが、今後の出生状況により、低学年も8名を下回る場合には、全学年が複式学級となる可能性があります。

馬木 小学校区保護者のアンケート結果



57/